

がん総合ドックのご案内

当院は国が認定するがん診療連携拠点病院であり、がんの早期発見に努めるためがんドックを実施しております。検査結果についても迅速に返送させていただきますので、ぜひご利用ください。

主な検査項目	基本コース	身体計測・血圧測定	身長、体重、BMI、腹囲、血圧、脈拍、sPO2
		血液検査・尿検査	炎症反応、血液学検査、糖尿、脂質、腎機能、肺機能、肝臓機能、胆道機能、膵臓機能、胃ピロリ抗体、腫瘍マーカー（胃がん、大腸がん、肺がん、肝がんなど）※男性のみ PSA（前立腺がん）
		便潜血検査	便中ヒトヘモグロビン（大腸がん）
		腹部エコー	肝臓、胆道、膵臓関係
		胃カメラ	胃がん関係
		胸部CT	肺がん関係
		♡子宮がん検査（細胞診）	※女性のみ 子宮頸がん
		♡マンモグラフィー（乳房撮影）	※女性のみ 乳がん
		心エコー、心電図	心臓検査
		大腸CT	大腸がん関係
オプション		DWIBS検査	全身（拡散強調画像併用全身MRI）検査

完全
予約制

◎検査日:毎週火曜日

◎開始予定時刻:8:45～（3時間程度）
※オプションによって所要時間が異なります。

申込み
方法

◎当院窓口でお申込み

◎FAXによるお申込み ※申込用紙は当院HPよりダウンロードできます。

大阪南医療センターHP ▶ 外来のご案内 ▶ がん総合ドックのご案内

南 窓

みなみ まど

皆さんとともに大阪南の
地域医療を支える広報誌

2021年2月号 No.6



独立行政法人 国立病院機構
大阪南医療センター



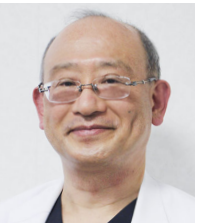
診療科NOW

リウマチ・膠原病・アレルギー科

内科と整形外科が緊密に連携し、 関節リウマチの治療と研究に取り組む。

大阪南医療センター 統括診療部長・臨床検査部長・褥瘡対策室長 橋本 淳 はしもと じゅん

大阪南医療センター 臨床研究部長・治験管理室長・臨床研修管理室長・免疫疾患センター部長 大島 至郎 おおしましろう



国内トップクラスの 関節リウマチの治療実績

リウマチ性疾患を中心に、膠原病、血管炎、アレルギー疾患を診療しています。リウマチ性疾患で一番多いのが関節リウマチです。関節リウマチの診察は一般的に内科と整形外科それぞれで行われていますが、当院では内科と外科が緊密に連携して治療にあたっているのが最大の特徴です。加えてリウマチ学会専門医の資格を持っている医師が多く、こういう施設は全国、世界を探してもあまりないと思います。

膠原病、アレルギー疾患については内科系医師が診療しています。当院の関節リウマチの患者さんは約2,300人と全国でも指折りの数で、膠原病についても難治性の病態が集まっており、臨床試験を含めた先進医療を積極的に行っています。

リウマチ患者さんの ADL・QOL向上を目指す

関節リウマチの診療に関して、内科系では病気の診断と薬物治療を行っています。生物学的製剤など新しい治療薬が開発され、炎症や関節破壊を抑えることができるようになりました。しかし検査結果で炎症が正常値であっても、痛みが残り、日

常生活動作に不便を感じたりする場合は外科的な介入が必要です。治療の目標は、患者さんのより高いADLとQOLの維持、向上です。そこで「リウマチロコモ外来」（院内外ともに予約受診可能）を設置し、外科系医師によって関節の状態が本当に

良くなっているのか、どの関節の機能不全が不便さの原因なのかを機能評価し、手術治療に関する情報提供をわかりやすく行っています。ビデオも作成して理解しやすくしています。



ビデオ「100歳まで歩ける
元気な身体を目指して
～関節リウマチ編～」
はこちら▶



患者さんは痛み慣れ、機能が落ちていても気づかないことがあります。筋力がなくなった状態で手術をしても回復が難しく、適切なタイミングで手術を行うためにも機能評価は重要です。手術はリウマチの専門知識と技術を持った外科系医師が行います。16年間車椅子生活を送っていた患者さんが立ち上がった症例がありますが、これは薬物療法だけでなく、内科医と外科医が連携し、適切な手術を行ったことで実現できたものです。また手術治療もリウマチ上肢、リウマチ足の専門の外科医がいることが大きな特徴です。リウマチ足の外科は「日本足の外科学会」から認定教育施設の認定を受け、「リウマチ足の外科の研鑽」を希望する専門医の教育施設となっています。さら



協和キリン株式会社

KYOWA KIRIN

私たちの志 検索

2019年7月作成

地域医療支援病院 | 地域がん診療連携拠点病院



独立行政法人 国立病院機構
大阪南医療センター

〒586-8521 河内長野市木戸東町2番1号
Tel.0721-53-5761 Fax.0721-53-8904
<https://osakaminami.hosp.go.jp>

診察・検査の予約方法はこちら▶



に股関節専門の整形外科チーム、脊椎専門の整形外科チームとも連携しすべての部位に専門的技術をもっているので、内科から外科までオールラウンドに高い専門レベルでのチームでより良いリウマチ医療を目指しています。これこそ当院が目指す医療です。

患者さんの症状に合わせ、 他の診療科とチームで対応

関節に強く症状が現れる関節リウマチですが、免疫が関係するところすべてに症状が現れます。このためさまざまな診療科と連携しながら治療を行っています。そのなかでキーパーソンとなるのが看護師です。当院ではリウマチケア看護師の資格を持っている人が多く、患者さんやご家族の最も近くにいて訴えを聞き、どんなチームで治療に取り組めばいいのか、よりよいチームづくりを担っています。

また女性の患者さんが圧倒的に多く、リウマチを持ちながら妊娠、出産、子育てを希望する人が少なくありません。「プレママの会」では、リウマチ治療をしながら安全に妊娠、出産するための情報を提供しています。現在、出産後の育児に関する情報も含めて「妊娠・育児を考えるリウマチサークル」として活動を広げています。



▲妊娠・育児を考える
リウマチサークル
詳細ページはこちら

部 門 概 要 リウマチ・膠原病・ アレルギー科

【体制】内科医8人、整形外科医5人

【特長】関節リウマチ、膠原病(全身性エリテマトーデス、多発筋炎・皮膚筋炎、強皮症、混合性結合織病、結節性多発動脈炎、ベーチェット病、成人発症型スティル病、血管炎症候群など)、アレルギー疾患(気管支喘息、薬物アレルギー、食物アレルギーなど)が対象。診療活動、研究活動、教育活動を展開し、臨床試験を含めた先進医療を積極的に行っている。



さらに「フットケア外来」では、フットケアを学んだ看護師(日本フットケア足病医学会認定のフットケア指導士3名、日本トータルフットマネジメント協会認定の医療フットケアスペシャリスト1名)によるたこ(べんち・胼胝)や白癬(水虫)といった足の病変の処置や足のケア方法の教育などを医師ヘフィードバックしつつ行っています。



診療データを研究活動に活用

当院では、2009年に開発したリウマチ診療支援システム「MiRAi(ミライ)」を活用し、治療だけでなく、研究活動を推進しています。診療の待合時間を利用し、患者さんに「瓶のふたを回せますか」「階段を登るとどんな感じですか」などのアンケートを行い、タッチパネルに入力してもらいます。これだけで診察開始時に医師は、その日の患者さんの関節の痛みや体調などの状態を把握できます。それを見ながら触診し、その評価を入力することで、電子カルテの診療情報や投薬、炎症反応などと合わせて病勢を多角的な視点から評価し、その日の診療に反映させることができます。

これを診療のたびに行うことで患者さんの疾患活動性のリアルワールドのデータが蓄積されます。「MiRAi」は当院以外にも全国18箇所の病院で使用されており、そのデータをあわせるとかなりのビッグデータになります。これを解析すれば、どういう患者さんがどんな治療を行い、5年後、10年後にどういう経過をたどったかが明らかになります。フィードバックすることで次の診療につなげることができます。とくに高齢化が進む日本、南河内医療圏において、高齢者の経過を検証することは非常に意味があります。

もうひとつの柱として、未だわからない関節リウマチの病因を解明し、完治する病気に向けての研究も進めています。

地域の先生方と一緒に リウマチの医療レベルアップを

関節リウマチは、早期診断、早期治療介入が一番大事です。地域の先生方が診断を迷われる場合は、すぐに患者さんをご紹介ください。治療に介入したもののうまくいかない、あるいは合併症があるなど難治症例の場合の相談もお受けしています。逆に、当院で治療がうまくいき、寛解を達成した患者さんについては、その後、地域で診ていただきますようお願いいたします。コロナ禍にある今はなかなか先生方と顔を合わせてお話しできる機会がありませんが、顔が見える医療連携を大切に、一緒に地域ぐるみでリウマチの医療レベルを底上げしましょう。



橋本淳メッセージ動画はこちら▶

TEAM紹介 臨床検査科

病気の診断や治療方針の決定に欠かせない、 高精度の検査を実施。

大阪南医療センター 臨床検査技師長 森脇 貴美 もりわき きみ



専門検査ができる 臨床検査技師が揃う

臨床検査科では、当院における臨床検査を担当しています。高い専門性を持った臨床検査技師が高精度の検査を行うことで患者さんの身体の状態を客観的に知ることができ、病気の診断や治療方針の決定に活用できます。

検査は多岐にわたっています。尿検査・便検査などの一般検査。血球算定、止血検査、細胞性免疫検査などを行う血液学的検査。コレステロールや酵素などを測定する生化学検査。ホルモン検査、腫瘍マーカー検査、アレルギーや自己免疫性疾患の検査。安全な輸血を行うための検査、微生物検査、病理検査。さらに生理検査では、心電図、呼吸機能検査、心臓超音波検査、腹部超音波検査、下肢静脈超音波検査などを行っています。特に当院にはリウマチ・膠原病・アレルギー科があり、それらの疾病に関連する検査が手厚いのが特徴です。

精度管理を徹底し、 迅速で正確な検査結果を提供

毎朝午前8時から外来採血が始まるため、その前から機器の準備をし、診療に間に合うように、できるだけ患者さんをお待たせしないように工夫しながら、24時間体制で対応しています。

正確な検査結果を提供するには内部精度管理が重要です。日々、測定機器の清掃やメンテナンスを行っているほか、管理試料を使って一日の最初と最後に検査を行い、結果の正確性やばらつき度合いを確認しています。また、定期的に外部精度管理調査に参加し、自施設の検査精度を担保しています。

チーム医療や新しい検査の 導入をサポート

臨床検査技師の専門性を生かし、チーム医療にも参加しています。NST(栄養サポートチーム)では、介入患者さんの栄養に関連するデータを入力。透析患者さんについては検査データを抽出し、カンファレンス時の資料作成や治療のサポートを行っています。

現在は新型コロナウイルス感染症で大変な状況にありますが、コロナ以外にもいつ未知の呼吸器疾患のウイルス感染症が拡

大するかわかりません。最近はそうしたウイルス感染症を検査できる検査機器や試薬がたくさん開発されており、当院でもさらなる検査体制の充実を図るべく、導入を検討しています。

各種検査を受付中、HPから申込みを

臨床検査科では、地域連携室を通して、地域の先生方からご依頼を受けた患者さんの各種検査を行っています。「心疾患のスクリーニング」では心エコーや血圧脈波、安静時12誘導心電図など。「生活習慣病合併症検査」では心電図や頸動脈エコーなど。「がん総合ドック」では心エコー、心電図、腹部超音波検査など。また、「胎児心エコースクリーニング」も受け付けています。ホームページから申込みができますのでご活用ください。

森脇貴美メッセージ動画はこちら▶



部 門 概 要 臨床検査科

【体制】臨床検査部長、臨床検査科長、

臨床検査技師29人、看護師5人、事務員5人

【特長】以下の6つの部門で構成されている。検体受付・採血室、生理機能検査室、検体検査室、輸血臓器管理室、微生物検査室、病理検査室。1日の検体数は、入院100~200、外来300~400。

